

令和元年度第2回「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について(報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

ついでには、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

[問合せ先 副校長 (046)241-8001]

1 アンケートの実施日

令和元年12月20日(金)

2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	授業のあり方については、いずれの項目においても75%以上の生徒から、引き続き肯定的な回答を得ている。学習状況については、「わかる努力」「意欲的な取り組み」では、肯定的な回答が多いが、「予習・復習」への取り組みは否定的な回答が多い状況であり、半数以上の生徒の取り組みが不十分となっている。学習に対する意欲はあるものの、授業外での学習活動は行われておらず、基礎学力の定着や学習の積み重ねといった部分に大いに課題が残る結果である。
	授業改善	生徒にとってわかりやすい授業の展開や、授業中の学習におけるさまざまな生徒への働きかけは、引き続き行っていきたい。また、授業中の学習内容に対して、発展的な事項や関連する事項を紹介するなど、生徒の興味関心が生まれるような指導内容、方法を検討していきたい。読書習慣や新聞記事を読む習慣の確立も含め、活字を読む機会を自ら求められような環境づくりや、文章に親しめるような工夫を考える必要がある。
地歴・公民	集計分析	授業のあり方については、「学習の見通しと振り返りの機会」「他者の考えを知る機会」で肯定的回答が多く、学習状況については、「わかる努力をしている」「意欲的に取り組んでいる」で、肯定的回答が多かった。授業内で考える時間・発表する時間を設けていることや、テーマに合わせたグループワークを実施したことが、生徒の意欲向上につながったと分析できた。一方、「予習・復習をしている」では、否定的回答が多く、家庭学習の習慣が身につけていないことが、分析できた。
	授業改善	生徒が興味関心を持ち、理解しやすい授業を行うようにする。そのために、導入で授業の内容と目標を明確に伝え説明する時間と、生徒が活動をする時間をバランス良く取り入れられるようにする。さらに、課題を課す・時事問題を多く取り入れるなどして、家庭学習の習慣を身に付けられるよう指導していく。
数学	集計分析	数学I、数学Aともに、ほとんどの項目で肯定的回答が70%を超えている。特に「わかる努力をしている」「身についたことを実感できた」で肯定的回答が多く、数学に対する学習意欲のある生徒が多い。しかし、1学期に引き続き「予習・復習をしている」で否定的回答が40%以上あり、第2学年における手立てを新たに考える必要がある。一方、1学期に比べて「自分の考えを深めることができた」「理解度に合わせた授業」で、若干ではあるが肯定的回答が増えている。授業のわかりやすさに関しては、1学期より向上することができた。
	授業改善	1学期と比較すると、学力差の拡大が進行している。生徒1人ひとりに目を向けた柔軟な学習指導を実施するために、今年度は習熟度クラス分けの組替えを例年より1回多く行った。生徒の実態に応じて、個別に課題を出して学習内容の更なる定着を図り、補習や課題など授業時間外での対応もしていきたい。また、発表や話し合いの機会も増やしていきたい。
理科	集計分析	物理基礎では、1学期と比べて全体的に肯定的回答が減少した。特に授業のあり方については、「考えをまとめたりする場面」で肯定的回答が減少した。グループ活動等の機会が1学期と比べ減少したことが原因の一つであると考えられる。学習の状況については、「予習・復習をしている」で肯定的回答が減少した。授業内容への理解が追いつかない生徒が多いことが原因の一つであると考えられる。 生物基礎でも、全体的に肯定的回答が減少した。内容が難しくなっているにもかかわらず、予習復習をしている生徒が減少しており、主体的・対話的な学びに関しても肯定的な回答が減少した。
	授業改善	物理基礎では、生徒が発表する機会を増やし、考えを深めることができるよう教材を工夫していきたい。また、生徒自身が主体的に取り組むことができるような課題を設定して予習・復習を習慣化させ、充実した授業となるよう改善していきたい。 生物基礎では、生徒各自が学習事項を表現でき、新たな課題を見つけられるようになることを今後も目指していきたい。その学習過程で、基礎的な内容の定着を図っていきたい。

令和元年度第2回「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について (報告)

保健体育	集計分析	<p>体育・専門体育では、多くの項目において肯定的回答が75%以上を超えており、生徒の満足度が高い。生徒の個人能力や課題に応じて、段階的な説明や指導の工夫により、多くの生徒が達成感を得ることができている。</p> <p>武道については、基礎基本を大切にされた内容や、礼儀作法の意味などを丁寧に説明しながら授業を行うことで、多くの項目において肯定的回答が増え、他の実技と同等の満足度であった。生徒の習熟度も向上してきたので、生徒が主体的に取り組めるように授業展開を段階的に工夫していく。</p> <p>保健、スポーツ概論の座学においても、実技科目同様に多くの項目において肯定的回答が75%以上を超えており、生徒の満足度が高い。今後、肯定的回答がさらに多くなるように、授業内容を精選していく。</p> <p>スポーツ科学科のある学校として、体育分野を牽引していけるよう、今後も指導していきたい。</p>
	授業改善	<p>種目選択制、男女共習の授業形態が定着した。「分かる・できる授業」を目指し、生徒自身が課題を見つけ、教えあい、学びあいをすることができるように、教員の指導に関して情報共有、および研修をしていく。また、種目選択制になったことに伴い、設定種目や同時展開の場所の工夫などについてさらに検討する。環境の整備など注意喚起をし、生徒が安全に活動できるような配慮をする。</p>
英語	集計分析	<p>1学期と比べて全体的に肯定的回答が少し減少した。学習内容が難しくなってきたことに加え、生徒自身の学習習慣が定着していないことが原因であると感じている。「他者の考えを知る機会」については、授業内で意見を共有する時間を設け、対話的な授業を構築する必要がある。学習の状況に関する各項目では、約80%の生徒から肯定的回答を得ている。習熟度別の授業展開により、理解力や意欲を高めていると考えられる。しかし、「予習・復習をしている」に関しては、他の項目に比べて否定的回答が多く、日々の授業の中でも復習する時間を設ける必要があると感じた。</p>
	授業改善	<p>学習した表現や語彙等を定着させるための家庭学習の習慣を定着させ、復習の習慣を定着させる必要がある。また、その目標を達成するための課題作成について検討していく必要がある。英語に関する興味を深め、自ら英語学習をする意欲を育成できるような授業改善を図りたい。英語を苦手としている生徒が多くいる一方で、英語を少しでも身につけられるようになりたいという意欲のある生徒も多いため、身につけたことを振り返ることが出来るような時間を設け、何を身につけてきたのかがわかるような授業展開を図っていきたい。</p>
家庭	集計分析	<p>1学期と比較して全体的に肯定的回答が減少した。原因として、2学期は被服実習を実施したため、裁縫に対して苦手意識のある生徒が取り組みにくい授業内容だったためと考える。「興味関心がもてる」や「わかる努力をしている」については、食生活や住生活など生徒の生活に通じるよう身近な題材を扱ったため、肯定的回答が多かった。</p>
	授業改善	<p>生徒が被服実習に安全かつ積極的に参加できる授業内容と指導方法の工夫に努めたい。また、ワークプリントをわかりやすくしたり、話し合いや発表をする機会を増やすことで、他者の意見などからも関心や意欲をもたせられるようにしたい。また、授業目標を明確にし、達成感が持て生活に活かせるように工夫していきたい。</p>
芸術	集計分析	<p>音楽・書道ともに、授業のあり方の各項目で肯定的回答が80%前後で、1学期と同様の結果であった。学習の状況の項目では、「予習・復習をしている」で否定的回答が多い。教科の特性上、予習や復習をできる範囲や環境は限られる可能性はあるが、授業内容や授業のアプローチ、指導等を見直し、生徒自身が予習復習に取り組みやすい状況をつくれるよう改善していきたい。</p>
	授業改善	<p>生徒に寄り添った授業を展開できるように、まずは生徒自身の理解度に合わせた授業の進行や、同じテーマでも様々な角度から生徒へアプローチし指導等ができることを大切にしていきたい。また、個々の生徒の疑問や質問に応えられるよう、机間指導等を徹底したい。生徒が予習復習をより行いやすくするために、授業目標の明確化や授業内容の改善をしていきたい。</p>
情報	集計分析	<p>授業のあり方の各項目では、概ね80%の生徒から肯定的な回答が得られたが、「かなり当てはまる」より「ほぼ当てはまる」の方が多くなっている。実習の内容が、1学期の文書作成中心から2学期の表計算ソフト中心に変わったため、取り組みやすさを感じる生徒が減ったのではとも考えられる。</p>
	授業改善	<p>生徒が課題に取り組み完成するまでの時間には個人差があるので、授業のペース配分やリズムなどを、より丁寧に心がけていく必要がある。3学期は、個人で調べて発表するという授業形態になるので、話し合いや発表する機会が増え改善できると思われる。</p>